

国際セミナー「変貌しつつある ASEAN の大都市交通」

国土交通省 藤田事務次官 来賓挨拶

2019年7月19日（金）

本日は、大変多くの皆様のご参加を得まして、この国際セミナーが開催されますことを、心からお慶び申し上げます。

またこの後、講演いただきます、インドネシア、フィリピン、ベトナムからの講師の方々のご参加、私の方からも心から感謝を申し上げたいと思います。併せましてこのセミナーを開催されました、運輸総合研究所の皆様に心から敬意を表したいと思います。

本日のセミナーでございますけども、『変貌しつつある ASEAN の大都市交通』というテーマのもと、インドネシア、フィリピン、ベトナムの各代表の皆様からご講演いただくと伺っております。経済成長が著しく、今まさに大きな変貌を遂げているジャカルタ、マニラ、それからホーチミンといった大都市の公共交通が、これまでにどのように変わってきたのか、また、今後、どのように変わっていくのか、大変に興味深いテーマであります。

ASEAN は、10ヶ国全体で人口 6.5 億人を擁し、その経済規模は、2.8 兆ドルに達する経済圏であります。今後の更なる成長が期待されております。このように成長著しい ASEAN のなかでも、ジャカルタ、マニラ、ホーチミンの各都市圏は、その人口が 1 千万人を超える巨大な都市圏でございます。ASEAN をリードする存在といっても良いかと思えます。これらの大都市では、近年、都市公共交通の整備が急速に進んでいると伺っています。例えば、ジャカルタで、今年の 3 月に MRT 南北線が開通したことは記憶に新しいところでございます。また、マニラでは、首都圏地下鉄事業等の契約が進んでおり、MRT3 号線のリハビリ事業が今年 5 月から開始され、着実に進展しております。さらに、ホーチミンでは、ホーチミン市都市鉄道 1 号線の建設が進められているところであります。これらの 3 大都市圏の都市公共交通に共通して言えますことは、日本企業が交通インフラの整備に貢献しているという点であります。日本は古くから都市公共交通が発

展してきました。1872年に、新橋・横浜間に最初の鉄道が開業して以来、日本の大都市は、鉄道網とともに発展をしてまいりました。

バスなどの公共交通機関も都市を中心に発達してきたことであります。このような大都市における公共交通の整備に対しまして、日本は多くの経験を蓄積しております。様々な形での協力ができるところではないかという風に考えております。

本日の講演やパネルディスカッションを通じまして、大都市における公共交通の整備について、各国が描いているビジョン、あるいは、直面している課題についての理解を深めていただく、併せまして、各国の取組から学ぶべき点や日本の経験やノウハウに基づいて、どのような協力をするところができるのかなど、皆様と一緒に考えるきっかけになればと思っております。

本日は、『変貌しつつあるASEANの大都市交通』を俯瞰するにふさわしい方々にご講演いただくこととなっております。本日のセミナーを通じまして、ASEANの大都市交通の更なる発展につながる有意義な知見の共有が図られますことを心からご期待申し上げます、私の挨拶とさせていただきます。

(以上)